

## 森林利用による動物多様性への影響と指標性の検討：地上昆虫

戸田正憲・田辺慎一・阿久津公祐・竹中宏平（北大・低温研）・

Nancy Jupanis その他スタッフ（キナバル公園）

森林利用（伐採強度・頻度、外来種植林など）の陸上昆虫の多様性への影響を調査し、生物多様性および生態系機能の変化に対する指標性の高い分類群を選定する。できれば、それに基づいて経済評価へのインデックス化を試みる。

### これまでの実績

保護区内原生林の標高・土壌条件の異なる 8 箇所のプロットにおいて、森林の葉群構造の変化を考慮して、一定間隔で垂直にセットしたバナナトラップを用いて、森林飛翔性昆虫類の採集をほぼ 2 年間にわたって継続した。これまでに、全標本の科レベルでの分類と個体数・生物体量の測定を終えた。ハナバチ類（送粉者）に関しては、種レベルの同定も終了。今後、2 年間で、ショウジョウバエ類の種同定を終える（戸田、田辺担当）。

### 研究計画

#### 1) バナナトラップによる調査（戸田、阿久津担当）

保護区内原生林と比較するために、同じサンプリングデザインで調査を行う。ただし、サンプリング頻度は、年数回とする。調査地は、Darmakot Forest Reserve (200-300? M a. s. l.) を中心とし、森林利用様式の異なるプロット（他の調査班と共通）を設定する。

全（8 箇所）保護区原生林プロットも含めて、葉群構造を測定する。

疑問点：保護区原生林プロット（Poring, Nalumad; 650-700 m a. s. l.）と比較できるか？

#### 2) アリ類調査（遂行可能性？）

DIWPA-IBOY マニュアルによる調査。

疑問点：保護区原生林のデータがあるか？種レベルの同定の問題（Maryatti さんの研究室との共同？）

#### 3) DIWPA-IBOY 調査の拡大（Nancy Jupanis・キナバル公園スタッフ・竹中宏平・阿久津公祐）

2003 年：Tawau で予定。

2004 年以降：DFR で可能か？